

暑いですね

〔英語〕

〔タガログ語〕

〔ネパール語〕

〔タイ語〕

It is very hot,
isn't it?

Totoong mainit
ツトオン マイニット

बूढ गर्मी छ।
クーボ ガルミ チャ

You [nu]m
ローンナ

〈目次〉

- ◎PHDメッセージ…1
- ◎PHD会員制発足の…1
- ◎研修生状況報告…2
- ◎1983年度・事業計画…3
- ◎研修生の意見…3
- ◎草の根交差点…3
- ◎協会ニュース…4

PHD運動とは

PHD運動とは昭和37年(1962)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際ボランティア運動です。これまで自分のためにだけ使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、昭和56年(1981)からはじめられました。

PHD LETTER

No. 7 発行 1983年6月1日

編集発行 PHD財団・PHD協会
〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
甲南サンシティ元町ビル
電話 神戸 078-351-4892
郵便振替 神戸 9-23625 PHD基金事務局
定価100円 印刷所 マルニ出版印刷

“人がその友の為に生命を捨てる、

此より大きな愛はない”

岩村 昇



この間の連休にフィリピンに帰ってまいりました。今ある在様の浄財で日本に未ださせていたがいて居るフィリピンの研修生パニサレスさんとリトさんを推薦して下さったカラガイ先生にお会いしました。カラガイ先生はコムニテイ・ヘルス(地域共同体に根ざした健康づくり)の責任者として、フィリピン国ラグナ県バイ郡で働いて居られます。静かな誠実なお人柄です。

その私の尊敬するフィリピン人医師カラガイ先生が、私の顔を見よといきなり、「日本人がフィリピン人に生命を救った!!」と、三夜も四夜も同じ言葉をくりかえされるのです。一人の若き日本人女性が、フィリピンの海岸で溺れかかって居たフィリピン人の友人を助けて、自分は死んでしまったというのです。そのフィリピンの友人の為に生命を捨てた日本人の名は藤崎ルツ記さん、「アジアの貧しい草の根の人達の為にお役に立ちたい」という志をたて、フィリピン大学でその奉仕の道の勉強を始められ、同じ道を歩むフィリピンの女子学生と一緒に休日を海岸で過ごして居られたわい此の四月の出来事でありました。藤崎さんはその生命の100パーセントをアジアの友の為に献げられました。私もせめて自分の生活の10パーセントをアジアの貧しく病める草の根の人達の為に献げなば!!

PHD会員制発足の お知らせと入会のご案内

岩村昇博士の提唱によるPHD運動は、皆様のご協力、ご支援をもちまして、3年目をむかえ、昭和57年8月には財務部門は法人化されました。発展途上国との草の根交流、PHD研修も順調に進められており、ネパールより2名、フィリピンより2名の第1期研修生を迎えてやがて1年になろうとしています。これ迄の経験から、PHD研修生1人に要する費用は、往復渡航費、日本での一年間滞在費・研修費と彼らの帰国後、自分の村での平和作り、健康づくりを続けるためのフォローアップ費用も含めて合計500万円かかることがわかりました。日本国内はもとより、諸外国でのPHD運動に対する期待はほだいに高まりつつあります。この時期に財政的基盤をさらに充実させるため、このほどPHD会員制を導入することになりました。一人でも多くの方がこの運動にご賛同下さり、ご入会いただきますようお願い申し上げます。

入会：PHD運動に賛同し、入会申込書と会費をPHD協会あてに提出されると、信仰、思想、信条に関係なくどなたでも会員となっていただけます。

会員：(1) PHDについての講演会、セミナー、研修会等に出席して意見を述べ、その活動に参加していただきとうございます。
(2) PHD協会が発行する機関誌「PHD」(年1回発行)、及び「PHD-LETTER」(年4回発行)、PHD協会編集の刊行物をお読みいただけます。

会費：(1) PHD終身維持会員 一口 100,000円
(2) PHD会員 年額一口 5,000円
(3) PHD友の会会員 任意の額(通信費としての年額500円を含む)

会費納入がご無理又はご不便な方は従来通り、個人又はグループでの一時のご寄付をお送りいただくのも感謝でございます。

入会についてご不明の点は、PHD事務局あて、お問い合わせ下さい。

研修生状況報告

早いもので帰国まであと一か月余りとなりましたが、研修生はとて元気で、終盤に入った日本滞在を、表のようなスケジュールで研修に励んでいます。今回は一人一人について、簡単ですが、ご報告します。

	B.アマッティア	B.ビスタ	M.ロサーナ	C.パニサレス
58.3	兵庫県多紀郡 原宅 養鶏・野菜 3/28~4/13	兵庫県多紀郡 渡辺宅 養鶏・野菜	帰国中	宇和島 愛媛県水産試験場
4	岐阜県種鶏場 名務原市 高田宅	岐阜県種鶏場 関市 山中宅	4/12~ 兵庫県多紀郡 溝口宅 稲作	淡水エビの種苗技術 玉木宅 榎原宅
5	原宅	渡辺宅		5/4 高砂市 ボランティア宅訪問 5/6~ 大阪府淡水魚試験場 コイ、フナの産卵過程 森山宅
	5/17~20 加古川市 全員 いなみの学園		薬草実習	大阪府淡水魚試験場 森山宅
6	東京旅行 2泊3日 原宅	東京旅行 渡辺宅	溝口宅	滋賀県 予定 水産関係 阪本宅
	6/15~7/3 全員 たんば農文塾		まとめ合宿	
7	7/10 ごろの帰国までHICに滞在し帰国準備			敬称略

パラト ビスタさん

愛知県から戻り、それまでお世話になっていた小嶋さんのお宅で、ヘルニア手術後の療養をしたあと、渡辺さんのお宅へ移りました。渡辺さんのところは、養鶏を中心とし、有機農法の農業も営んでおられます。彼の任んでいるネパールの山間部は、電気、水道、ガス、電話はなく、道路も充分ではありません。そうした彼の環境にあわせて、渡辺さんに指導して頂いています。彼もアマッティアさんと一緒に岐阜へ行きました。林業や果樹栽培にも興味があり、多くの事を学んでいます。



たんば農文塾で岩村先生の御家族も交えて研修報告をするビスターさん 58.4
Mr. Bista is talking with Dr. Iwamura's family on his training in Tamba Nobunjiyuku.

コンラド サントス パニサレスさん

4人の中で、研修スケジュール調整で、一番苦労したのが、彼です。来日前、「日本では淡水エビの養殖がさかんだから、それを身につけたら」と、きかされて来ましたが、現在では殆んどやっているところがありません。スタッフ一同事前の準備不足を反省させられました。そこで各地を探しまわり、やっと宇和島で、無理をきいていただけになりました。それまで希望がかなえられず、不完全燃焼の彼でしたが、宇和島では別人の如く研修にとりくみはじめ、2か月の予定を1か月延長する程でした。ホームステイについても急なお願いでしたが、暖かいご協力を得ることができました。宇和島を去る時は、お世話になった方々に「ウワジマ イズ パラダイス」(宇和島は天国です)とあいさつをしていました。



愛媛県水産試験場でのパニサレスさん 58.3
Mr. Panisales in Ehime pref. Fisheries Experimental Station.

マノリト ヴァルデス ロサーナさん

彼の家庭はお父さんが、すでに亡くなられ、彼が大黒柱として家を支えています。フィリピンの多くの場合、長男長女はとて責任重大です。日本に来るにあたり、お母さんがあとは自分に任せなさいと彼を送りだしました。人を雇って稲作やアヒルの飼育をしていたようですが、女手で家計を支えることは難しく、アヒル400羽を売り、耕うん機を売って、生活をつないでいました。このことを彼には伏せていましたが、岩村先生が彼の村を訪ねた時、事情が分り、彼は2月に急きょ一時帰国し、家の立直しをはかりました。幸い4月中旬に再来日でき、現在溝口さんのお宅で稲作を中心にした研修をさせていただいています。初夏を迎え、寒さに弱い彼も元気にやっています。フィリピンと日本では気候など、条件が違い、技術的にはそのまま応用できないものもありますが、ホームステイをしたことによって多くのヒントを得ることができたと話してくれました。



飯田市東中学での交歓会、中央ロサーナさん 58.1
At the meeting of junior high school in Iida-city Mr. Rosana (center).

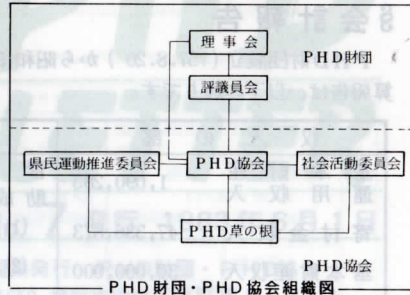
ビレンドラ バハドゥール アマッティアさん

渡辺さん同様、有機農法で農業を営んでおられる原さんのお宅で、勉強しています。彼自身、農業、化学肥料の使いすぎによる害を、知識として持っており、家畜の糞尿、食べ物のクズの利用などネパールでも、可能な堆肥づくりに熱心です。今年に入ってから、養鶏に対する意欲が、とて強くなり、このお宅でも、平飼いでやっておられるのですが、彼の強い希望により、急きょ、岐阜県関市の種鶏場での研修を準備しました。ここは一月の研修でお世話になった、アジア国際病院の看護婦、田島さんの紹介で出かけ、ホームステイ先もお世話頂きました。急なことにもかかわらず、気持ちよく引受けて下さり、感謝でした。原さんのお宅に戻ってからは、稲作、野菜と、本格的な農作業のシーズンに入り、忙しくやっています。彼は帰国にあたり、参考図書、資料が欲しいようですが、野菜、養鶏関係で、英語の適当なものがありましたらご紹介願います。(担当 藤野)



原さんのお孫さん由美子ちゃんと真祐子ちゃんとおアマッティアさん 58.4
Mr. Amatyia with children of host family.

さる3月22日(火) PHD財団理事会が開かれました。議題は、PHD会員制、昭和58年度事業計画案、昭和58年度予算案、昭和57年度補正予算案の4題でした。昭和58年度事業計画の概要は、PHD研修第2期生6名を7月からむかえます。ネパールより2名の女性研修生は、主として手芸および婦人の社会参加が研修テーマです。農業研修の2名は、昭和59年2月に来日の予定です。



昭和58年度は月1回の予定で、兵庫県下各地でPHDセミナーを開催することになりました。主として、アジアで平和、健康、人づくりにたずさわった方々、又は現在、国内でこれらの運動にたずさわっている方々を中心にした参加自由の草の根セミナー・学習会です。初年度で準備の都合もありますので、8月頃には第1回の会合がもてるようにしたいと思ひます。機関紙PHDの第2号は9月に発行の予定です。PHD LETTERは5月、8月、11月、2月の4回発行を計画しております。バザー及び展示会は年間4～5回の開催予定で準備をすすめております。会場等についてのご提案をPHD協会ではお待ちしております。



- NEPAL (ネパール) Ms. Radha Devi Banstola(38) [手芸] Mr. Samba Meha Kayastha(30) [地域医療] Mr. Bishunu P. Adhikari(29) [農業] Ms. Srijana Sahi (33) [手芸] PHILIPPINES (フィリピン) Mr. Rene Briz(22) [薬草栽培] Mr. Wilfrede M. Lanip(23) [農業]

PHD 第 2 期 研 修 生

(List of PHD trainees in 1983)

1 ページでご案内いたしましたPHD会員募集は年間を通じて行います。ご協力をお願い申し上げます。理事会及び評議員会は3～4回を予定しております。さる5月13日(金)のじぎく会館におきましてPHD財団、評議員会準備会を開催いたしました。PHD財団設立にあたって発起人をお願い致しました80名の方々のご出席をお待ちしておりましたが、全員のご出席はなかったにもかかわらず、評議員の構成や、会員制、基本財産、等の重要事項について十分なご討議をいただき、7月中旬には評議員、県民運動推進委員、社会活動委員も決定される運びとなりました。PHD財団、PHD協会の組織図につきましても審議していただきました。

◎ 一年をふり返って4人の研修生に、2つのことをたずねてみました。

- 1. 日本の社会に対し何かご意見はありませんか。 2. 帰国して日本で学んだことをどう生かしていきたいですか。

* M. ロサーナさん (フィリピン 28才) /

- 1. 日本の農業は根本的な分野で、量が不足しています。特に社会的混乱のもとになる穀物の確保が問題です。みかん、ミルク、米は過剰生産だとききました。米以外の穀物の消費の殆どは、輸入しています。なぜ日本では、国の需要に応じて、他の作物を作らないのでしょうか。 2. PHD研修生として、異なった環境の中で、多くの知識を得ることができ、私は恵まれました。アジア保健研修所での指圧、薬草などは、村の人々にとっても役に立ちそうです。村のリーダーのひとりとして広島県農業者大学校で学んだ豆腐、おからの作り方などは、子供の栄養に役立て、拡めていきたいと思ひます。可能ならば、現在、職のない村の「婦人会」の収入源としても、有望であり、すすみたい企画です。次に稲作についてですが、村の人々は私に多くの期待を寄せています。私は明石の兵庫県農業センターで学んだことを伝え、今お世話になっている溝口さんの所で学んでいる育苗の仕方をはじめ施肥、防虫、除草剤についても伝えます。

* フィリピンでは、大きな街でのみ買えます。親指の先の量のとうふが入った料理で約10ベソ(260円)だそうです。殆んど中国系の人が作っています。庶民の口には仲々入りません。

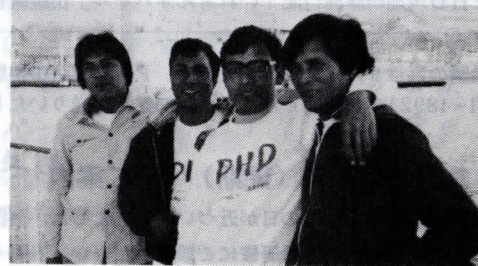
* C. バニサレスさん (フィリピン 51才) /

- 1. 日本はとてもしばな国であると思ひます。これまでの滞在の経験からアジアの中でもすぐれた社会を形成していると思ひます。私がいろいろ見聞した中では、20才前後になると子供達が皆、親元を離れるようですが、両親が年老いてもめんどろをみないのは問題だと思ひます。 2. 特に宇和島で学んだ淡水エビの育苗技術は条件が多少違いますが、成功させて囲りの人に拡めていきたいです。それ以外にも多くの経験ができました。ありがとうございました。

* B. Bアマツティアさん (ネパール 26才) /

- 1. 日本はアジアの中でとてすすんだ国です。私は特にアドバイスする必要を感じませんが、日本では核家族化がすすんでいるようですが、親と子、兄弟同士の関係をもっと密にしたほうが良いと思ひます。 2. 日本とネパールの社会は、多くの点で異なっています。だから、日本での体験をどう生かしてゆくか、今、考えているところです。私の村の発展に対し、いくつかのヒントを得ました。まだ足りない分について、残りのあいだに、しっかり勉強したいです。できることならもう少し滞在したいぐらいです。

*****草の根交差点*****
今回より、18年間に亘るネパール生活を体験された岩村先生の奥様に、日本と異った日常の様々な生活状況や考え方をおたずねし、ミニ情報として、シリーズで掲載してみたいと思ひます。
“乾燥野菜” その一
ネパールは全般に野菜の量が少く、特に山地は、4.5.6月が乾期に入るため、野菜の端境期になります。従って保存食といえる乾燥野菜が、生活の知恵として普及している様です。トマト、カリフラワー、大根の葉等…… 色々な野菜を乾燥。中でも大根の葉は、瓶の中に入れ、棒切れでつついて発酵させ、その後、天日にて干す。これをスープ等に入れると、酸味がきいて結構いける。又、トマトは肉類と炊き合せたり、カリフラワーは煮物等に使用。年中、ハウス物の出回る日本と違い、自然に即した生活の知恵が、息づいていると言えるのではないのでしょうか。



宮島へのフェリー船内で Four trainees on Ferry-boat to Miyajima-island for sightseeing.

* B. ビスタさん (ネパール 32才) /

- 1. 私は、日本の社会のしくみと文化に、とても好感をもちました。今でも日本は発展途上国に援助をしていますが、PHDのように貧しい国の村の人々が向上するために、草の根の人々を対象にした形の手助けがもっと必要だと思ひます。 2. ① 私は家族計画協会に働いていますが、ここのスタッフに、日本での体験を教えます。 ② 私が養鶏のプロジェクトをスタートさせ、村に拡めたいです。 ③ 養鶏で発生する鶏糞を利用して、農業を向上させたいです。 ④ 日本での社会のしくみを村の人に伝え、村の発展の参考にしたいです。 ⑤ 私の村では、貧しい人々が多いのですが、お互いが助けあう、ボランティア・サービスを拡めたいと思ひます。 ⑥ 日本での勉強で得た知識、技術で、自分だけがお金を得るのではなく、村の人全体が向上するように、生かしたいと思ひます。



§ 会計報告

PHD財団設立(57.8.20)から昭和58年3月31日までの収支決算報告は、以下の通りです。

Table with 2 columns: 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure). Rows include Basic Assets, Operating Income, Deposits, etc.

§ PHD基金寄託の状況

皆様からの浄財につきまして、PHD-LETTER第6号につき、ご報告します。毎週日曜日、神戸新聞紙上に寄託者のお名前を掲載していただいております。 昭和58年2月1日～4月30日 総計 6,676,961円

§ 6月はPHD月間です。

PHD運動提唱者、岩村昇博士の国際ロータリー世界理解賞受賞(1981.6.1)を記念して毎年6月をPHD月間とすることになりました。お1人お1人で、この月間の実践目標をきめていただき、PHDの輪をさらにひろげていきましょう。

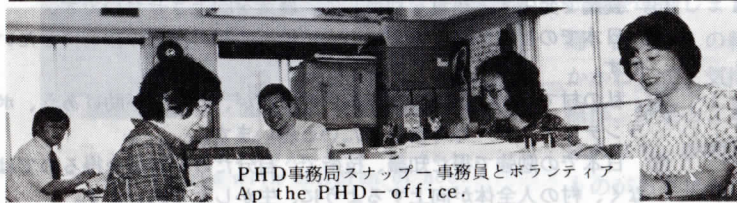
第1回PHDデー(1983)のつどい

- とき: 1983(昭58)年6月25日(土) 13:30~18:00
ところ: のじぎく会館(078-242-5355)
参加費: 1,000円(300名のご出席予定)
I 講演とシンポジウム(13:30~15:30)
「生きるとは分ち合うこと」岩村昇PHD協会長
「PHD生活交流を経験して」PHD研修生と受け入れ家庭
II PHD草の根交流会(16:00~18:00)
メッセージ「ふるさと兵庫とPHD運動」坂井時忠兵庫県知事
III PHD現地研修旅行記「いれぶんネパール」出版報告

参加ご希望の方は6月11日(土)までに、PHD協会事務局(078-351-4892)へお電話ください。参加券をお送りいたします。

§ PHD集団生活研修(後期)へのご案内

PHD研修第1期生の離日の日が近づいて参りました。外国よりの研修生と共に、ぜひこの集団生活研修にご参加ください。日帰り、宿泊、いずれも結構です。兵庫県内外からの講師を予定しております。
とき: 昭和58年6月15日~7月3日
ところ: たんば農文塾(07955-6-2417)
交通機関: 国鉄篠山駅よりバス本篠山経由、後川下で下車または三田駅より竜坊温泉行バス出橋下車(1日3往復)、お車では「竜坊温泉」を目標においでください。
携行品: 食費などの実費、寝袋または毛布、洗面具
その他: 参加資格は問いません。研修スケジュールにしたがって行動していただきます。お問合わせ、参加申込はPHD協会事務局 神戸(078)351-4892まで



PHD事務局スナッパー事務員とボランティア Ap the PHD-office.

§ 新任紹介

新進気鋭のお二人に、自己紹介をお願いします。

昭和28年9月23日生
大濱 裕
一橋大学経済学部を卒業後、5年間の商社勤務を経て、PHD協会主事へ

5年前の或る日、私はカルカッタのスラム街の一角にたたずんでいました。ゴミの山の中で、乞食の母親が犬やカラスと一緒に残飯をあさっています。見つめる私に気づいた彼女は、死んだ様にグッタリとなった子供を腕に、何かめぐんで欲しいと一歩一歩迫って来ました。私は何もできません。貧困という余りに大きく厳しい現実の中で、必死に生きようとする一人の母親の前に、私にできた事はただ涙を流し乍ら彼女を見つめることだけでした。遠い日の事でした。でもあの母親の目は今も私の心の中に生きています。
“生きるとは分ちあうこと” 素晴らしい言葉だと思ひます。あの時の母親に何かの技術があったら……彼女が同じ様な境遇の中で生きる人々にその技術と知恵を伝えられたら、きっと……そう思うと、行動せずには居られません。私の10%を捧げて。
日本は今、物質的には豊かになりました。でもその一方で多くのものを失ってきているのも事実です。私は、まず自分の家庭で、職場で、地域社会でPHD運動を進め、その輪をアジアへ、世界へ拡めたいと思ひています。よろしくお願ひ致します。

増岡 裕 昭35年1月1日生

生まれは、福岡県田川郡、育ちは広島県三原市、そして今、家は再び福岡県田川郡にあります。

3月に、福岡教育大学養護学校教員養成課程を卒業し、一人淋しく神戸にやって参りました。大学は、実際、漕艇学部漕艇学科漕艇専攻でも紹介した方が正確であり、授業中も夢の中で漕いでおりました。もう好きなボートも見るといしか楽しめませんが、これからは、公園のローボートで我慢します。
早くPHD精神を身につけ、PHD協会のスタッフの一員として、誇りを持って活動に励んでゆきたいと思ひます。みなさん、よろしくお願ひいたします。

大浜裕さんは、庶務・会計・海外交渉、増岡裕さんは、研修・交流、担当となります。 福島晃雄様、鎌田真佐男様、長い間、ご苦労さまでございました。

§ 写真展、バザー、PHD展のお礼

- さる3月11日より2週間、そごう神戸店フォトギャラリーでの「いれぶんネパール写真展」の開催にあたりましては神戸新聞社及び神戸婦人コミュニティ会議(吉田有公子代表)の皆様にご協力になりました。ありがとうございました。
●3月30日(水)国際ソロプチミスト神戸のご好意で、チャリティ・バザーの一角をお借りして行いましたPHDバザーは予想外のご支援とご協力がありました。お礼を申し上げます。
●神戸市市民局との共催によるPHD展(1983)は、年度初めの4月上旬、さんちかインフォメーション・ギャラリーで行なわれました。パネル展示、映画等を通して、市民の皆様へのPHD運動への一層のご理解とご参加をいただくことができました。

§ たんば農文塾主催、農文塾セミナーのご案内

とき: 昭和58年6月18日(土)~19日(日)
ところ: 多紀郡篠山町後川 たんば農文塾
参加費: 1万円、定員50名
申込法: 6月10日までに、兵庫県多紀郡篠山町役場、総務部企画係内、たんば農文塾事務局宛(〒669-23、電話07955-2-1111) 官製ハガキに、住所、氏名、電話、職業、年令、を明記してお申込みください。
持参品: 毛布一枚、洗面具、筆記具他
内容: ココの話(大山澄太氏)、ともに生きる(岩村昇氏)、家庭は良い土のごとく(戸田唯巳氏)の講義、及び「ネパール、フィリピン研修生との生活交流から得たもの」「生き方を考える」の座談会など。

§ ボランティアの仲間に入ってください

仕事の内容は、簡単な事務処理です。時間は月曜日~金曜日 午前9時~午後5時 土曜日は正午までです。このうち御都合の良い日と時間帯をお申し下さい。岩村先生のお人柄にひかれて、自主的に集って来た人たちが、PHD精神で楽しくやって居ります。一度、気軽にお訪ねくださいませんか。